

S S T L

NO. 56 2017. 11. 18

職場参加ニュース

共に働く街を創るつどい2017



いっしょにはたらいて まちにそよかせ

職場参加をすすめる就労移行支援を切り口に地域共生へのヒント・課題を考える



日時: 12月17日(日) 13:00~16:00 (開場 12:30)

会場: 越谷市中央市民会館5F第2・3会議室

埼玉県越谷市 越ヶ谷 4-1-1 TEL: 048-966-6622

東武スカイツリー線越谷駅下車・東口より徒歩7分位

会費: 会員 500円 非会員 700円 (資料代共) 手話通訳等依頼中

第1部: 就労移行支援—当会の準備状況と先行地域での実績報告

経過報告: 谷崎恵子さん (特定非営利活動法人障害者の職場参加をすすめる会就労移行支援準備室)

特別報告: 深坂桂子さん (特定非営利活動法人わくわくかん 就労移行支援事業 リポーンプロジェクト)

第2部: パネル討論 「いっしょにはたらいて まちにそよかせ」

—職場参加をすすめる就労移行支援を切り口に地域共生へのヒント・課題を考える

パネリスト:

企業就労している障害者

通所施設職員と通所者

相談支援の現場から

就労移行支援の現場から

生協から生まれた事業所から

浅井武夫さん (㈱ニューオタニ)

辻彩子さん他 (くらしセンターべしみ)

柳沼絵美子さん (特定非営利活動法人にじさんぽ)

深坂桂子さん (特定非営利活動法人わくわくかん)

佐藤真知子さん (ワーカーズコレクティブたのしい輪)

コーディネーター: 朝日雅也さん (埼玉県立大学保健医療福祉学部教授)

コメンテーター: 越谷市、春日部市 (依頼中)

主催・特定非営利活動法人障害者の職場参加をすすめる会 後援・越谷市・春日部市 (依頼中)

共に働くまちをつくるつどい2017



いっしょにはたらいて まちにそよかせ —職場参加をすすめる就労移行支援を切り口に地域共生へのヒント・課題を考える

当会が任意団体からNPO法人化した2004年当時の状況は、「養護学校卒業者の55%は福祉施設に入所」、「就労を理由とする施設退所者はわずか1%」と国も認めていました。その人にあった支援の場が、結果的に滞留の場になっていました。当会はそれ以前から、そうした支援のありかたと環境を変え、重度といわれる障害者も含め、さまざまな形で地域の職場に入ってゆこうと活動し、その一環として越谷市障害者就労支援センターの準備で市や関係機関と協働した後、運営受託を求められて法人化したという経過があります。

その後、国を挙げて、障害者自立支援法～総合支援法、障害者雇用促進法他の大きな制度改革があいつぐ中で、当会は上記センターと自主事業としての職場参加ビューロー・世一緒を両輪として、所期の目的を遂行してきました。当会のセンター受託は10年で終了し、社会福祉協議会に引き継がれて現在に至ります。その後も、世一緒は地域に開かれた職場参加とピアサポートの場として継続しています。

とはいえ、2016年3月の特別支援学校高等部卒業者はその62%が福祉施設と、10数年前よりかえって支援の場に偏在しており、学ぶ場を分け隔てることの弊害はさらに増しています。いっぽう、「就労を理由とする施設退所」に関しては、2015年で4.1%であり、制度の効果が示されたように見えます。ただ、その内訳は、「就労移行支援からは22.4%」とされる一方、就労A、就労Bの両継続支援に限定するとやはり1%にすぎません。就労移行支援は通過施設であり、制度発足当初は滞留していた人の一般就労への文字通り「移行支援」の意味合いも少なからずありましたが、その意味が薄

れ、以前なら一般枠で就労していた人たちが障害者枠に移行する受け皿という面が前面化しています。

いっぽう、厚労省の2016年障害者雇用状況の集計結果では、雇用されている障害者の数は13年連続で、企業の実雇用率は5年連続で、いずれも過去最高といわれます。しかし、その内訳をみると、就労A型の利用者だけで15.7%を占め、特例子会社に雇用される人は5.7%であることを考慮すると、障害のある人となない人が職場で出会い、共に働く関係はあまり広がっていないのではないかと考えざるを得ません。ちなみに、2000年時点で、就労A型の前身というべき福祉工場の利用者は2701人であるのに対し、2016年の就労A型利用者は6万人です。さまざまな働く場ができ、支援が強化された半面で、場や支援に応じて人々が分け隔てられ閉塞された状況が強まっています。

これまでの実績から、当会が注目するのは、2003年に49.6万人の障害者が就労していた5人～55人の小さな企業の可能性であり、もうひとつは高齢者、困窮者、主婦等の就労困難者自らが試みている暮らしに根ざした仕事おこしの取組、そして障害者だけの場に閉ざされることなく地域への職場参加をめざす福祉・医療施設の存在です。これらの企業や団体、施設等とつながりながら、必ずしも雇用率にカウントされない仕事や職場体験の機会拡大をベースとして、共に働く関係を切り拓き、地域に風を通してゆきます。

また、国・自治体の実績を示しつつ、施策の見直しを提言してゆきます。

当会は、これらに取り組むために、世一緒やセンター受託で蓄積してきたノウハウやネットワークを生かし、独自の就労移行支援事業所を立ち上げます。就労はもちろん、より広い職場参加の多様な実績を重ね、障害のある人もない人もごちゃごちゃと生き合う地域を、みんなで創ってゆきます。

今回のつどいでは、先行する就労移行支援事業所の成り立ちや体験報告、地域の企業の現状、仕事おこしの報告等を受け、就労移行支援事業準備スタッフもまじえ、状況認識や課題整理を語り合います。

世一緒NOW立ち読みコーナー

(世一緒NOWはグループワークにエントリーされた方だけにお送りしている内部情報紙です。その一部をここに。)



夏が終わるころからずっと沈んでいるあなた。期待にこたえようとして頑張りすぎてるあなた。たまにはちょっと足を延ばして、世一緒に立ち寄ってみませんか。

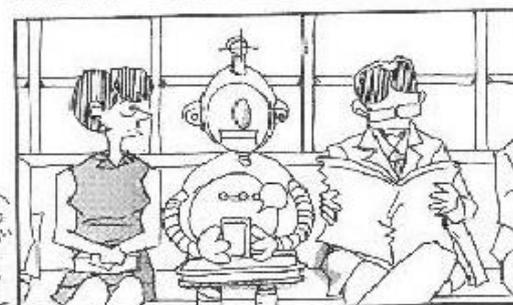
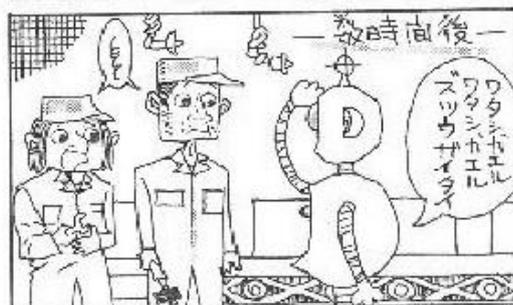
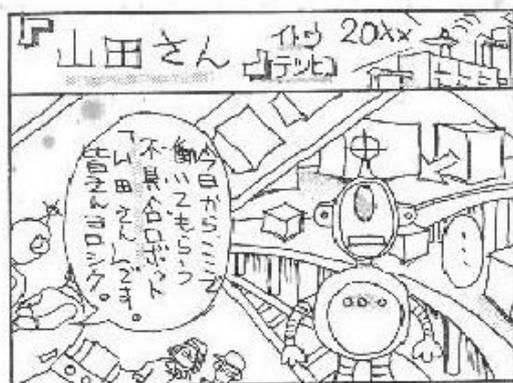
そして、就労しているあなたも、時間が空いたら寄ってみてください。おしゃべりもよし、静かに心を休めるもよし。

世一緒は街角のベンチ、みんなの思いと情報の交差点です。



越谷市民まつりに世一緒の店を出し笑にぎわい。就労している人たちも応援に。

世一緒NOW 職場参加ビューロー世一緒ネット通信 6号 2017/10/14
〒343-0023 越谷市東越谷1-1-7 須賀ビル 世一緒内 048-964-1819 (TEL&FAX)
shokuba@deluxe.ocn.ne.jp



2017 年度会費納入ありがとうございます。

青木 繁明	阿久津 康仁	朝日 雅也	伊藤 峰子	内野 かず子	延与 早紀子
大野 弘幸	大塚 眞盛	尾谷 英一	黄川田 仁志	小森 陽子	佐藤 春江
清水 泰代	鈴木 照和	高瀬 勇	竹迫 和子	田島玄太郎	谷崎 恵子
津崎 悦子	辻 浩司	友堅 由紀恵	中山 佐和子	西陰 勲	長谷川 顕
原 和久	原田 真弓	日吉 孝子	水谷 淳子	森田 譲二	山崎 かおる
山崎 有子	山崎 泰子	山田 裕子	吉田久美子	吉原 広子	大政 マミ
贅田 俊之	荘子 敏一	正木 敬徳	谷塚 祥子	岩崎 廣司	山下 浩志

精神障害者の自立生活をすすめる会 生活支援センター苞 生活支援センターえん 特定非営利活動法人かがし座

ご寄附ありがとうございます。

川瀬 光子	直井 利雪	田島 玄太郎	土居 幸仁	小倉 恵子	水谷淳子
山崎 泰子	沖山 稚子	イオン千間台店	大塚 眞盛		

すいごご Cafe

8月のすいごご café

9月のすいごご café

6日《施設の中だけで育つ》

2日《人権を問い続けて》

生活ホームわら細工運営委員 & 金曜世一緒当番

人権啓発映像監督 大熊照男さん

友堅由紀恵さん



障害者をテーマにした教育映画を製作するため、「わらじの会」取材。「さまざまな被差別の当事者と日常的なかかわりを多く持つことで、互いの姿が見えてくるし、何よりも自らの意識が変化してくる。」とおっしゃる。

5~18歳まで、3ヶ所の施設で暮らし、両親の死に目にも立ち会えなかっただけでなく、兄と二人の弟も児童養護施設におり、兄弟と一緒に暮らしたのは由紀恵さんが高等部を卒業してからの3年間だけだった。最初はクーラーも暖房器具もなく、やがて生保がクーラーを認めるにいたってやっと冬寒く夏暑い日々が終わった。それでも地域生活がうれしい。総合県交渉でも伝えたかった人生。

9日《みんなの国際化》

越谷市国際交流協会 関根賢一さん

13日《手探りの進路指導》

元特別支援学校教員、元ぶろっぷはあと あすなろ施設長

宇都木草さん



地域の人々の心配事の相談や子育て、介護など、幅広い支援活動をしている一步会の越谷代表もされている。越谷市国際交流協会や一步会の活動の話はほとんどせず、異文化の国で見たもの、聞いたこと、知ったこと(つまり実体験したこと)をいろいろお話していただいた。

地元の肢体不自由養護学校(特別支援学校)高等部の教員として長年にわたり障害のある生徒の進路指導を務めた後、卒業した重度重複障害の人たちの通所施設の長として働いた。現在は障害者生活支援センターや世一緒に関わっている。

20日《目に不自由な人へ声かけを》

草加視覚障がい者虹の会 宮田新一さん

NPO ひかりの森副理事長 中島泉さん

23日《三つ子育てを卒業し》

当会運営委員 日吉孝子さん

26歳のとき男児が二人、女児が一人の三つ子を出産され、子育てはすでに卒業。母、妻、そして障害者として、波乱万丈の人生を乗り越えてこられたようです。



1984年8月24日第三種郵便物承認
事場、2階に居室の共同住宅をつくり、みんなで助け合って100歳まで現役でいることだそうです。

25日《「鼻」の話をしよう》

耳鼻咽喉科開業医 水谷淳子さん



「鼻」—この不思議な器官。呼吸に伴う三大機能（異物防御、エアコン、嗅ぐ）、また声の音色。その各機能の不調による病いと鼻と美醜の観念など。参加者の共通の感想は、「鼻ってすごいんだ!?!」、「ただの空気の通り道じゃないんだ〜」

11月のすいごごcafé

1日《いかにして生活クラブへ》

生活クラブ越谷地域協議会 内山豊美さん

生い立ちから今に至る経緯を語っていた。曰く、食べるものも、環境もよく考えなければと生活クラブで学んだという。生活クラブでは包材一つにしても環境を考えた結果「効率が悪い」。だが、「すべて効率ではなくてちょっと不便でもちょっと見えた目が悪くても安心して取り入れられるものの方がいい。」



8日《病院を出て暮らして》

グループホーム入居者 青木繁明さん



現在春日部市のグループホームに住み、作業所に通ったり、世一緒の木曜の当番スタッフを務めています。精神科病院に長期入院後、無縁社会状況のなかで人知れず格闘する日々を「生い立ちから現在まで」と題して、原稿用紙6枚もの文章を書いてきて、それを読み上げる形で話されました。

宮田さんは視覚障害者という立場から、苦労をされたご自身のさまざまな体験談や、その困難を乗り越えて視覚障害者だけではなく、目が見えない、見えにくい高齢者へのサポート活動にも取り組んでいること、中島さんは視覚障害をフォローするための補助具の進化がめざましく、パソコンを持参されて音声機能や画面の文字拡大機能などを、ご自身がキーボードを操作して紹介してくれました。

27日《築地市場で働くとは》

植田信夫さん



植田さんは都の職員（経営指導課課長など）という立場で長年築地市場に関わり、退職したばかり。マスコミで話題の豊洲移転問題を、市場の中で働く多様な人々の側からわかりやすく解きほぐしていただいた。

10月のすいごごcafé

4日《越谷在住10年の中で》

インターネット事業団、仕事おこし懇談会 in こしがや

世一緒、水辺の市のHP 作成者 飯島信吾さん

労働旬報社という歴史のある労働法や労働運動の専門誌で働き、それをベースとしてシーアンシー出版という生活文化、医療・健康、労働者協同組合といった裾野を広げた仕事に取り組んだ。それが、現在の飯島さんの枠組みの広さや時代状況への鮮明な姿勢につながっているらしい。



18日《農と食をつなぐ事業を》

キッチンとまと代表 須長こうさん

農と食が危機的な状況に陥った90年代—「隠された労働」と呼ばれてきた専業主婦たちが自ら立ち上がり、自立した立ち上げた。越谷市の農業を深めながら、農家を訪ねる活動がなくなり、農業がないように願っていること。夢は、そういう農家の奥に、1階は仕



うんとこしょ 共に生きる介護人養成講座 ハイライト

1984年8月24日第三種郵便物承認

4団体共催の事業であり、会議には常に4団体が参加して協議しながらも、進行管理については同生協越谷ブロック地域協議会が責任をもって行っている。

●越谷花火大会を世一緒に楽しむ

7月29日の花火大会では、世一緒に夜店を出すので、そこで交流しながら花火見物する企画。またうんとこしょ常連の盲ろう車いすの橋本画伯が河原で見物するのに、参加メンバーの内山さんが他の介助者と同行してつきあってみた。



昼間は視えない画伯だが、真っ黒な夜空のスクリーンに開く大輪の花火はちゃんと視えている。火薬のにおいや空気の振動とあわせて。



雨の中での花火大会のため世一緒にの店は例年よりお客さんが少なかったが、うんとこしょに参加した生活クラブ生協越谷ブロックの方々にぎわった。

一般企業で働いていたそがれ世一緒などにも来れない元世一緒スタッフも立ち寄り、あちこちで語り合いの輪が。

●うんとこしょ会議(毎月)



うんとこしょは隔月でおでかけ企画と座学を交代で行っており、前回のふりかえりと翌月の企画のつめなどを毎月越谷生活館のふら〜りで行っている。それがうんとこしょ会議。

この会議がユニークなのは、この養成講座が同生協越谷ブロック地域協議会と職場参加をすすめる会、ケアシステムわら細工(NPO 法人共に生きる街づくりセンターかがし座)、仕事おこし懇談会 in こしがやの

●生活クラブ越谷センター・展示会即売会で車いす体験コーナー



うんとこしょ企画のいわば番外編。蒲生の生活クラブ越谷センターでの展示即売会に、世一緒やわら細工の面々が車椅子体験コーナーを初出展しました。

地域協議会のみなさんも協力していただきました。



●「埼玉県立大「清透祭であいましょう」」



このところ雨続きということもあり、生活クラブ越谷地域協議会の「いこいこチラシ」でPRするもエントリーなし。そこへ10月23日(月)のうんとこしょ会議でケアシステムわら細工の野島さんから、当日は喫茶の準備をする人手が乏しいので、うんとこしょとしてお手伝いをとの呼びかけあり。

清透祭初日の10月28日(土)がうんとこしょ企画。この日はわら細工のメンバーと地域協議会の参加者で会場内にチラシ配布に出かけたり、喫茶の会場の前の廊下で開かれたバザーの売り子さんを一緒にやったり。楽しみながら一緒に働きました。

バザー喫茶は清透祭2日目の29日(日)も開かれましたが、28日(土)のほう売り上げがありました。

職場・地域ひろがりつうしん

●谷中耳鼻科駐車場の除草作業



職場参加ビューロー世一緒のグループワークのメニューの中で、ほとんど毎週、コンスタントに仕事があるのが、谷中耳鼻科駐車場の除草。

10月11日(水)、午前10時30分。谷中耳鼻科駐車場に参加希望者が集合して除草作業開始。

夏場ほどの勢いはないものの、まだ少しずつ伸び続けている雑草を鎌で丁寧に抜いていく。抜いても抜いても生えてくる雑草。一緒に作業するサポーターの直井さんが「熱湯と塩をかければ雑草は二度と生えてこないらしいから、ちょっとやってみない？」とイタズラっぽくつぶやく。参加者たちは一斉に「やめてください、私たちの仕事なくなる」と顔をひきつらせながら笑う。作業範囲は23㎡。作業時間は1時間15分。お疲れ様でした

●今年も職業リハ研究・実践発表会へ



11月10日(金)、東京ビッグサイトで開かれた。

第8分科会：多様な就労支援で、「重度障害者の社会参加を含む幅広い就労支援としての『職場参加』13年の検証」と題して発表を行った。

その後、ポスター発表の会場を見に行ったら、「日吉さん！」と声をかけられた。なんと「うんとこしょー共に生きる街の介護人養成講座」のお出かけ企画・花見に生活クラブのイベント情報を見て参加されたS

1,984年8月24日第三種郵便物承認
さん。「地域の福祉施設障害者の就労支援のためのプログラムー工業団地内の緑地を活用した取り組みー」という興味深い発表を行う大学院関係者の一人として来ていた。

おそるべし！うんとこしょの地下水脈。

●水上公園花壇に春に向けてパンジー



11月13日、秋を華やかに飾った花株を抜き、地寄せを行った上で、これからの冬に彩りを添え春に満開になるパンジー、ピオラの移植作業を開始した。

入所施設を含むさまざまな施設から利用者と職員等が参加し、それぞれの持ち味を生かして手分けして働く。

●協同労働の協同組合法法制化へ向け集会

「協同労働の協同組合」法制定推進フォーラムが



11月11日(土)三郷市文化会館で開催され、当会からは障害者達と共に働き、休日は地域の障害者も交えソフトボールで活躍している(株)ニューオタニの尾谷理事が報告した。

「協同労働の協同組合」法は、ワーカーズコープやワーカーズコレクティブが中心になり、長年実現に向けて働きかけが続いてきたが、今回「働き方改革」とののらみもあり、今通常国会に提出される可能性が浮上。集会では、ワーカーズコープ永戸名誉理事長より「認可制でなく普通の会社と同じ届出制とすることや労働者性というポイントははずせない」などの基調講演が行われ、それを受けて各地域での取り組みの報告があった。

ありがとうございます

上萌笑子

世一緒に当番を体験してみても、決められた時間に遅れないで行く事や、自分一人でやるのではなく、周りの人と協力して相談しながらやる事の大切さを実感しました。短い間でしたがありがとうございます。

はたらきつづけたい

熊谷健

ケアパートナ川口の所で頑張っています。今は清掃に入って、一生懸命やっています。ケアパートナ川口でお茶足したりおしぼり配ったりとかやっています。今は試しに入ってやっています。楽しいのか、すごく大変です。お仕事はちゃんとやっています。大変だけど、自分では頑張っています。

僕の目的はお母さんの為にやっています。だからこそずっと側にいたいんです。お母さんは言葉を言うようになりませんでした。「やめさせられたらどうするの、9月いっぱいまでやめさせられちゃうよだから頑張ってください、心配しちゃうからね、仕事を探したくないからね、頼むよ」といわれました。だから僕はやめさせ

世一緒にでは、障害や病気その他の状況による働きづらさを、他の人々と共有し、よりよく生きるために、世一緒に関わっている人たちを「スタッフ」と呼んでいます。世一緒に専門家が障害者を指導・訓練する場ではありません。サポーター(非常勤やボランティア)の支えを受けて、世一緒にの当番(ピアサポート実習)や「語る会」、身近な地域で必要とされる仕事(花壇整備、除草、ポスティング)のグループワーク、主婦や高齢者が地元の店や事業者と一緒に街にぎわいを創りだすための「水辺の市」の手伝いなどしています。ここには元スタッフ等からの近況報告も紹介します。

られたくないです。自分にかかっています。やめさせられたら悔しいと思います。だからこそ自分でできるように頑張りたいです。みんなの為にやっつと続けるように頑張りたいです。お仕事は大変ですけどずっと続けるように頑張りたいです。お母さんは続けてほしいと願っています。仕事してできるように頑張りたいです。

わたしが歩いてきた道

青木繁明

今は70歳になりました。若い頃は、人と話すのが、にがてな方で皆について遊ぶ方でした。中学生の頃は、新聞店でアルバイトや店番の手伝いなどをしていました。高校へは進学できず、15歳で就職し、手の指のケガなどしたことで、一時、人との交流から遠のいていました。18歳の折に自衛官として、1年2か月続いたことなどで胸に焼き付くものがありました。25歳くらいから凸版製本夜勤30歳から3年土方をやり人生についていろいろ考えることを学んだような気がしました。30歳の後半に幻聴が現れ、長い精神の病気との闘いになり、病歴は統合失調症で39〜59歳まで

で入院していました。

グループホームに入居した頃はあまり活動らしい事もなかったのです。自立について、リハビリなどのデイケア等により、自意識が強くなり、協調性も大事ですが、独自性も大事だと、考えが芽生えて来ました。私は今思うことは、アパートへ入ることを考えています。少し歳をとりましたが、自分のすみかを念頭に今、作業所や世一緒にの出会いなどで、将来に向けて、一步一步老人ホームへ入るまで、今の自分を大切にしたいと思っています。

退職後の人生を世一緒にで

癸生川新一

癸生川新一と申します。「けぶかわ」と読みます。珍しい名前ですが、栃木辺りでは比較的多い名前だそうです。私自身は東京・荒川区の出身で現在六十四歳。これまでメッキ会社ほかハンドバッグ、靴底、時計のバンドなどを作る会社で働いてきました。世一緒に顔を出すようになったのはつい最近ですが、最近では毎日のように立ち寄るようになりました。除らこぼと水上公園の花壇整備、除

草作業などさまざまな活動にも積極的に参加して、有意義な時間を過ごしています。

まいにち仕事してます

柴哲

アイルビーバックで電話クリーニングハブラシでゴミを落としたりみがいったりよごれを取ったりゴミ箱で折ったりパックで折ったりダンボール入れたりメリーチョコななじぎで折ったり車の荷物はメリーチョコ箱を運んだりします。

世一緒にNOW楽しみ

田村

世一緒にNOWを見るのが楽しみです。がんばっている人の気持ち伝わってきます。

NPO法人障害者の職場参加をすすめる会

当会はみなさまの会費と寄付金等により支えられています。どうぞ、ご協力をお願いします。

〒344-0023 埼玉県越谷市東越谷 1-1-7 須賀ビル 101 世一緒に内 (ハローワーク斜向かい)

048-964-1819 (fax 共) shokuba@deluxe.ocn.ne.jp http://www5b.biglobe.ne.jp/~yellow/

二〇一七年十一月十八日発行(毎月十二回 二と四と六と八の日) 通巻 第四五八〇号
一九九四年八月二十四日第三種郵便承認
発行人 埼玉県障害者団体定期刊行物協会 〒333-0851 川口市芝新町十五-九 アステール藤野1F



すいごごカフェ 11/22~12/20 1時半のゲスト



22日(水)

平岩和好さん

銀座・和装小物老舗店主

商いを通し見えること

大学闘争を経て、人との出会いの中で、家業を継ぎ、バブルからその崩壊の過程を通し、商いを続けながら社会、地域との関りを探る。そこからのヒントは？

29日(水)

藤崎 稔さん

わらじの会代表

こんな自立生活もある

18歳の夏、スウェーデン。全介助でモーターボートを運転し、看護師の妻と暮らす彼に出会ってからのシグザク、すったもんだのおれ流自立生活を教えよう。

12/6日(水)

野島久美子さん

埼玉障害者市民ネットワーク代表

若い人達を育ててきた

わらじの会の自立生活の草分け。後続の障害者たちはもちろんのこと、介助に入る若い人たちの人生相談や家事の指導など、明日の社会を担う人々を育てて。

13日(水)

沖山稚子さん

元就労支援センター所長

職場参加との出会い

就労困難な人々を常に増産して営まれる社会と向き合ってきた半生をかえりみて。そしていま就労移行支援事業所の立ち上げに際しての思いやヒントとは。

20日(水)

山崎泰子さん

当会代表理事

私の職場参加前史

いつも重度障害の娘と一緒に、買い物に会議に出かけてゆき、職場参加をライフスタイルとして実践。生い立ち、青春の踏み跡をたどり職場参加の前史を綴る。

2017年11月～2018年1月 カレンダー 2017.11.20作成

11月			12月			2018年1月		
日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか	日	日中行事	ほか
1日	水	日中行事 当番余騰	1日	金	日中行事 産産フェスタ参加	1日	月	日中行事
2日	木	さいごカフェ(内山さん)	2日	土	産産フェスタ	2日	火	ほか
3日	祝	+	3日	日	産産フェスタ	3日	水	
4日	土		4日	月	求人広告チェック	4日	木	
5日	日		5日	火		5日	金	
6日	月	水上公園世一緒作	6日	水	当番余騰	6日	土	
7日	火		7日	木	地域通夜、草工	7日	日	
8日	水		8日	金	ミニTOKO	8日	月	
9日	木	草工場	9日	土	うんどこしよBBQ	9日	火	
10日	金	園リハ研究家送別費金	10日	日	ネットワーク21	10日	水	
11日	土	園回労働の協同基金	11日	月	求人広告チェック	11日	木	
12日	日		12日	火	越谷水辺の市	12日	金	
13日	月	水上公園共同作業	13日	水		13日	土	
14日	火	越谷水辺の市	14日	木	地域通夜、草工	14日	日	
15日	水	園場参加を語る会	15日	金		15日	月	
16日	木	地域通夜、草工	16日	土		16日	火	
17日	金	水上公園共同作業	17日	日	共に働く街を創るつどい	17日	水	
18日	土	どよう世一緒	18日	月	水上公園共同作業	18日	木	
19日	日		19日	火		19日	金	
20日	月	水上公園共同作業	20日	水	園場参加を語る会	20日	土	
21日	火		21日	木	地域通夜、草工	21日	日	
22日	水	水上公園共同作業	22日	金		22日	月	
23日	祝	豊沼福祉農園収穫祭	23日	土	みんな一緒にのクリスマス	23日	火	
24日	金		24日	日		24日	水	
25日	土		25日	月	ピアサポート研究会	25日	木	
26日	日		26日	火		26日	金	
27日	月	求人広告チェック	27日	水		27日	土	
28日	火	わくわくかん農学交流ツアー	28日	木		28日	日	
29日	水		29日	金	月刊わらび新年号	29日	月	
30日	木	地域通夜、草工	30日	土		30日	火	
			31日	日		31日	水	

○世一緒の活動はいつでも、だれでも参加できます。ただ食事が出る行事(キネマ、ランチカフェ等)のときはあらかじめご連絡ください。
 ○予定が変更になることがありますので、念のために世一緒に電話でご確認ください。
 イラスト:世原 涼子



2016年 11月 日発行 毎月12回(2と4と6の日) 通巻 号
1,984年8月24日第三種郵便物承認